新潟工科大学研究紀要　第 16 号　2011 年 12 月

柿崎和泉守景家の大志
-長岡平野の治水と都城計画-

深澤　大輔*

（平成 23 年 10 月 31 日受理）

The Ambition at Kakizaki Izumi no Kami Kageie
―The riparian work and the Palace plan on the Nagaoka plain―

Daisuke FUKAZAWA*

It was supposed that Kageie was passed away in the 1570s, but he renamed with Fukazawa Yokichi and was lived untill 1614. Moreover, although it was supposed that Kageie had plotted rebellion against Kenshin, in fact, he dreamed of creating palace plan by flood control of Shinano River and making the outskirts into fertile agricultural land. Kenshin went to Kyoto with Kageie et al. and was received in audience by the Emperor and a general. Then, they returned to Echigo, and Kenshin opened the celebration ceremony. That time, Kageie brought the long sword made by Go-yoshihiro. I think that it is an allegiance evidence that Kageie was using the sword as the heirloom.

Key words: Ambition, Kakizaki Kageie, Holy diagram, Yoneyama belief, Palace plan, Nagaoka plain

1.　はじめに

柿崎和泉守景家[1]は、上越市柿崎区を本拠とする柿崎但馬守利家の子として 1513（永正 10）年に生まれた。上杉謙信から見て 20 歳前後年上で、幼名を弥二郎と称していたが、1532～54 年（天文年間）に上条上杉の乱に際して戦功をたてて、20 歳の頃、柿崎一族の惣領となり和泉守を称するようになった。その後景家は、川中島の戦いで一番乗りを果たしたことなどから戦闘一辺倒の猛将と捉えられているが、軍事面のみならず、内政や外交にも上杉家の宿老として活躍した。また、謙信外征中の春日山城の守備や、斎藤朝信と共に奉行として政務を担うなど、謙信から厚い信頼を受けていた。しかしながら、没年は不詳である。因みに景家は、1574（天正 2）年以降、諸記録からその存在が消えている。菩提寺の楞厳寺では過去帳に 1574（天正 2）年 11 月 22 日を命日としている。これに対し、1577（天正 5）年 11 月 7 日に越中不動宿において信長に白馬を献上し謀反を企てたとの嫌疑で誅殺されたとの説もある。この他、上杉の家系図[2] [3]には息子の晴家の名前があり、1578（天正 6）年没とされている。更に、景家の亡霊が出たなどの騒ぎが柿崎から柏崎付近で何回もあり、その度に葬式を雪降り前に上げ、ほとぼりの冷めるのを待ったなどとも伝えられている。

北朝方の出身であった謙信（景虎）は最初に南朝方の栃尾を支配するために入ったとさ

* 建築学科教授　Department of Architecture and Engineering, Professor

れ、当初は栃尾衆は入って来ることに抵抗していた。謙信が春日山に入った際、地元に精通している豪族として柿崎景家を家臣として招き入れたが、いつ南朝方の勢力が謀反を起こすか常に恐れており、1575(天正 3)年に脳卒中で謙信が亡くなる前、「夜な夜な無実を訴える景家の亡霊に苦しめられて死んだ」とされている。

これらに対し、また、上杉景勝から柿崎家復興の約束を受けた旧臣は晴家の弟である柿崎憲家を立てて景勝側に付いた。この事により旧臣が 2 派に分かれて戦うこととなった。この謀反を企てた景家一派を皆殺しにするようにとの景勝の命を受けてお家再興を願う柿崎憲家方は、詰城であった猿毛城で戦い死闘を繰り広げたが、身内を殺すことに偲びず、今後一切この地に顔を出さないようにと言い聞かせて逃がし、景勝に皆殺しにしたと報告し、安堵状を貰い、お家再興を成したと推察される。実際は、二手に分かれ、一手は長野県の松代に逃げ、その後米沢に移り、本家は北海道の厚岸町に住むなど、柿崎姓を名乗っている人達[4]と、もう一手は長岡市の深澤に逃げて、御恩を子々孫々まで忘れないため柿崎の姓を深澤に変え、家紋も丸に違い鷹の羽に変え、その後、栃尾の田ノ口から西中野俣に落ち伸び深澤姓を名乗っている人達がいる。

栃尾の深澤与吉は、位牌の記録から 1525(大永 5)年生まれで 1614(慶長 19)年に 90 歳で亡くなったと言える。深澤家では、NHK の大河ドラマ「天と地と」が放映された際に、粗野で野蛮な柿崎弥二郎と弥三郎が出て来たのに対し、「そのどちらかが祖先の与吉で、立派な武将であった・・・」と不満を周囲に漏らしていた。景家[2][3]は、米沢柿崎系譜では、幼名を最初弥三郎、次に弥二郎と称したとされ、姉との 2 人姉弟であった。これに対し御家中諸士略系譜では景家の長男の幼名を弥三郎、次男を弥二郎と伝えている。与吉の 12 年前に景家が生まれていたとすると別人であったかも知れないが、本稿では、越後に残った深澤の系統こそ柿崎和泉守景家の末裔と仮定し、以下、謀反とされた事柄は何であったかなどについて考察して見ることにしたい。

2. 柿崎和泉守景家が描いた Z 字形

2.1 刈羽三山と妙行寺が描く五岳真行図形

刈羽三山とは、柏崎の西に位置する一峰の米山(996.2m)と東の二峰の八石山(518.0m)と南の三峰の黒姫山(889.5m)の三山を指す。この三峯は綺麗な三角形をなして刈羽平野を囲むようにして立っており古くから刈羽三山と称され、信仰の山とされてきた。1374 (文永 11) 年に佐渡への流罪を許された日蓮上人が寺泊へ向かう途中、暴風にあい番神の地へ着岸した。その際創立され、1597 (慶長 2) 年の地震のため翌年「法修山妙行寺」と「海岸山大乗寺」を合併して「海岸山妙行寺」となった番神から現在の西本町 1 丁目へ移転した妙行寺がある。この寺と刈羽三山とを結ぶと図 1 の如く綺麗な四角形になる。この形は五岳真行図形と呼ばれ、万能の護符として知られるものである。また、妙行寺の参道は黒姫山山頂と結ぶ線と一致する。現在の刈羽平野は穀倉地帯となっているが、鏡池などの地名に見られるように当時は沼地が広がっていた。

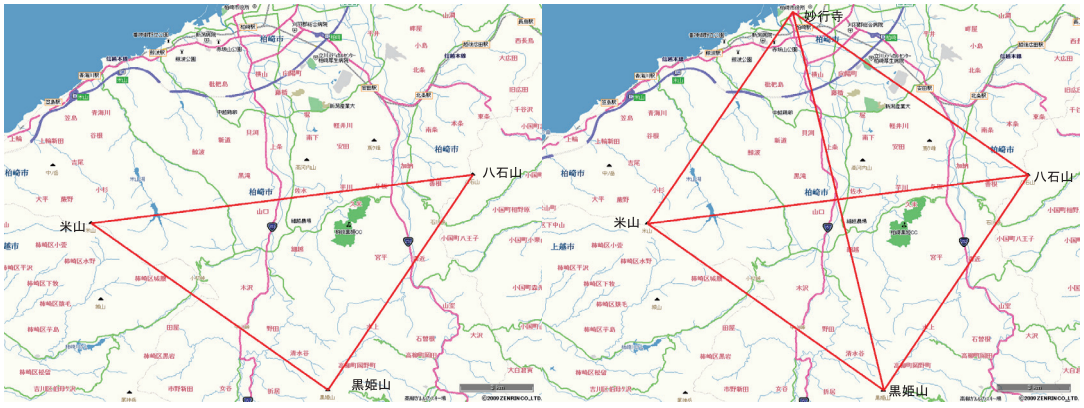

図１　刈羽平野に見られる刈羽三山（左）と五岳真行図（右）

2.2 柿崎和泉守景家が思い描いたＺ字形

景家は、柿崎の米山寺から何回も米山に登り、刈羽平野と頸城平野を眺めて育ち、良くその周辺の地理を知っていたものと思われる。そして、長岡から西山に抜ける薬師峠の八石山にも登り、そこから信濃川の流れる広大な長岡平野を眺め、時にはその氾濫によって平野が沼のようになっている様子も見たことがあったと推察される。

ところで、深澤家では、猿毛山の戦いで身内から逃がされた景家は、長岡の深澤村[5]に深澤城主か村長か僧侶を頼って命からがら落ち延び、姓を変えたと伝えて来ている。しかしながら、奇妙なことに長岡の深澤村から南西に鬼門線を引くと小国との境の刈羽郡の八石山に当たる。そして、そこから流れている川の名前は深澤川で、麓にある深澤村を流れている。同様に薬師観音が祀られている刈羽郡の米山から東北に鬼門線を引くと、長岡と西山の薬師峠近くの八石山に当たる。このように薬師と薬師、八石と八石、深澤と深澤を結ぶと図２の如くとなる。このような、天と地、山と川などの如く、同じ地名や山名を繋げて関連付けることは連想法と言われ、平安時代頃から見られた。

図２　景家が描いた鬼門-裏鬼門線と地震除けのＺ字形

3. 長岡平野に偏在する米山塔

3.1 米山の信仰[4]

米山は、奈良時代の 712(和銅 5)年に泰澄大師により開山され、田の神、作の神などの農業神として、また、病気平癒の神として、農民を初め、多くの人々の信仰の対象とされていた。柏崎市伝説集には、米山開山の師泰澄と修業僧の沙弥は、海上を通る船から食べる米を貰って暮らしていた話が載っている。ある日、米を積んだ船に米をくれるようにと頼んだが断られたので、船に積んであった米俵を空に飛ばし米山の頂上に積み上げた。驚いた船主は、泰澄に米を返してくれるように頼み込むと、山の頂上から米俵は鳥が飛ぶように船上に戻った。それ以来五輪山を人々は「米山」と呼ぶようになったとされている。

また、昔から信仰の盛んなこの地域は、「米山講」といわれる団体が作られており、明治・大正の最盛期には 600 以上の「講中（信仰グループ）」があった。講中は、毎年正月から 10 月までの間、7 日ごとに輪番宿を決めて、そこで信者は御詠歌や世間話に興じていた。11 月、12 月は、アガリ講、シマイ講といわれ、盛大に行った地域もあった。こうした生活の中で地域との連帯感を深めてきた。そして、米山薬師への信仰は、「米穀豊穣」を祈ることで、参詣の登山者は遠く蒲原、中頚城、東頚城、三島、刈羽郡など広い範囲から集まった。「米山登山」は、6 月上旬の山開きを迎えるとともに、信仰登山、信者の代参登山（米山講の代参）が始まり、代参登山は昔からの慣習で行われ、代参人は上納米等を持って護摩供修行、豊作、家内安全を祈願し、お札、当帰（米山に自生する薬草）、清水、土を収め、下山し、それらを各戸に配り、神棚に供え或いは家、田畑にまき、虫よけ、魔除けとしていた。 また、柏崎では、12 歳児の初登山には、「薬師が手を引いてくださる」という伝説があり、この時期に登山する学童が多いと言われている。

ところで、景家は 1513(永正 10)年生まれで与吉は 1525(大永 5)年生まれと 12 歳違いである。また、赤子が誕生するとお七夜に命名するが、七歳になる前に亡くなると水子供養と称し地蔵を建てた。つまり、七歳以上に育った子を子供として扱い、13～15 歳になると元服式を行い大人とされた。景家は幼名を最初弥三郎と伝えられているので最初そう命名され、米山登山を済ませた 12 歳になって弥二郎と変えたのではないだろうか。そして、景家が深澤村に落ち延び、姓と名を変え、家紋を変えた際に、生まれ年も干支が一巡する 12 年遅くすることで生まれ変わり、薬師様が手を引いて貰えると考えたものと推察される。

3.2 米山講と米山塔の分布と八石山と弥彦山と守門山の描く三角形

米山に関する信仰は、山が見える範囲に山頂から同心円的に広がるものと想定される。上記の如く米山登山は、遠く蒲原(下越)、中頚城・東頚城(上越)、三島・刈羽郡(中越)などの広い範囲から集まったとされている。しかしながら、米山講と米山塔の分布を図 3 で見ると、中越の長岡市と見附市に広がっており、下越の三条市や分水町にも見られるが、上越には殆ど見られない。

柏崎市の八石山山頂と長岡の深澤村の深澤神社を結ぶ鬼門線を延長すると見附市内町の城山に当たる。その線と栃尾の守門山と三島の気比宮とを結ぶ線の交点と弥彦山頂と結び、

南方向に延長すると長岡市栖吉の城山に当たる。そのようにして描かれた図 3 を見ると、信濃川の洪水で苦しんで来た地域がすっぽりと入る。また、見附の城山の手前に真宗大谷派の浄覚寺の開基とされる 10 代釋善栄[6]によって 1573～1592 年の天正年間に長願寺が創建された。この天正 2 年から 6 年頃に景家は亡くなったとされているが、実は生きていた。

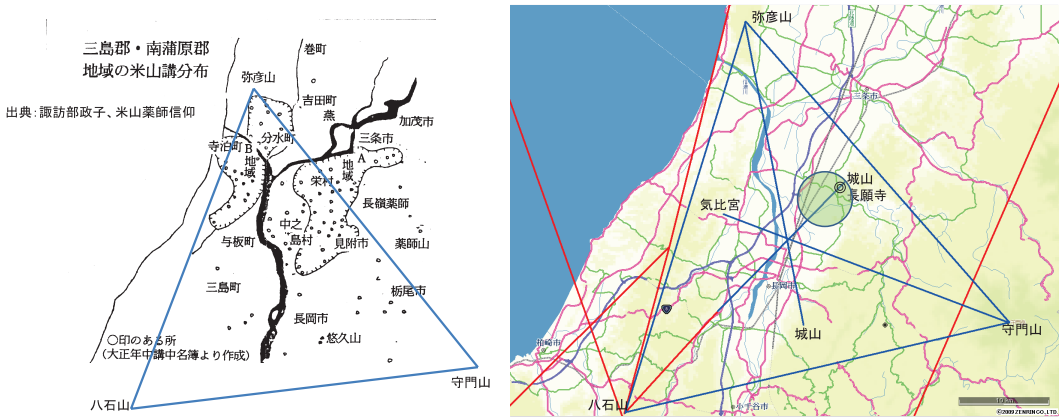

図 3　米山講の分布（左）と八石山と弥彦山と守門山で囲まれた地域の都城構想（右）

4.　柿崎和泉守の野心（考察）

4.1　Z 字図形について

京都では、比叡山が鬼門だと言われているが、京都と比叡山のどこを結ぶのか、良く分からない。しかしながら、大極殿跡の中心から鬼門線を引くと大原の弁財天に当たり、朱雀門跡の中心からそれに並行する線を引くと日枝神社の奥の院のある八王子の磐座に当たる。そして、この磐座と大極殿跡とを結ぶと逆 Z 字形が浮かび上がる。

同様に名古屋では、瀬戸の定光寺が尾張藩初代義直の菩提寺であり、名古屋城の鬼門と言われているがそれを結ぶと、北東の方向とはかなりズレることがわかる。従って、名古屋城の中心から鬼門線を引くと多治見の式内明神大社の内津神社の中心に当たる。一方、定光寺の中心から南西方向に線を結ぶと熱田神宮の中心に当たる。

更に東京では、江戸城の鬼門除けとして造られたと伝えられている上野の寛永寺跡の本堂の中心と天守閣跡の中心とを結ぶと、かなり北向きの線となる。従って天守閣の中心から北東に鬼門線を引くと台東区の浅草寺の中心に当たる。その浅草寺の中心から先に描かれた線の平行線を引くと、港区の浜離宮恩賜庭園の池の蓬莱島に当たる。

以上は何れも逆 Z 字形となっており、柿崎和泉守の Z 字形とは逆になっている。何故逆の形となっているのか分からないが、風水的に見ると日本海側と太平洋側とでは山の位置と川の流れる向きが逆になっているためと推察される。また、上記の逆 Z 字形は天皇とか殿様・将軍の居所を中心として描かれていると見られるので、与吉とは唯者でない人物であったと想定され、単に猿毛山の戦いで敗走し深澤村に落ち延びたものと考え難い。

4.2　景家の思い描いた米山と弥彦山と守門山との三山で囲まれた土地

奈良県橿原市の畝傍山と耳成山と天香久山の三山で囲まれた地に藤原京[7]が建設された。耳成山と高松塚古墳、天香久山と四天王寺をそれぞれ結ぶ。そしてその 2 本の線の交点と畝傍山を結び東に伸ばすと藤原京の宮都に当たる。この都は、「四神に叶い、三山良く鎮めと成す」と詠われ、玄武(北)と朱雀(南)、青龍(東)と白虎(西)の四神が護り、畝傍山は(うねぶ→うねる→)洪水、耳成山は(耳鳴り→地鳴り→)地震、天香久山は(香り→風→)台風の如く三つの自然災害が鎮まる良い土地であるとされた。これと同じ形は、東の飛鳥と呼ばれている古墳群の見られる埼玉県本庄市の生野山、大久保山、山崎山にも見られる。また、新潟県村上市の岩船神社、西奈彌神社、羽黒神社にも見られる。

ところで、景家は 1513(永正 10)年生まれで、謙信が 49 歳で 1578(天正 6)年に亡くなった時、65 歳(与吉 53 歳)であった。大國実頼は、直江兼続の弟に当たり、1562(永禄 5)年生まれなので、49 歳(与吉 37 歳)年上であった。村上では、謙信が所有していた 60 余りの村を景勝が相続し、その土地を実頼に与えた。その土地に御館様の天皇に対する忠義心を引き継いで、実頼は村上に宮都を造り、天皇を迎えようと構想した。実頼は 1594(文禄 3)年に 32 歳で村上城主となったが、その時与吉は 81 歳(景家 93 歳)であった。兄の兼続は米沢で家臣を食べさせて行くのが精一杯であったが、与吉は、実頼の構想[8]に耳を傾け、アドバイスをしたものと推察される。

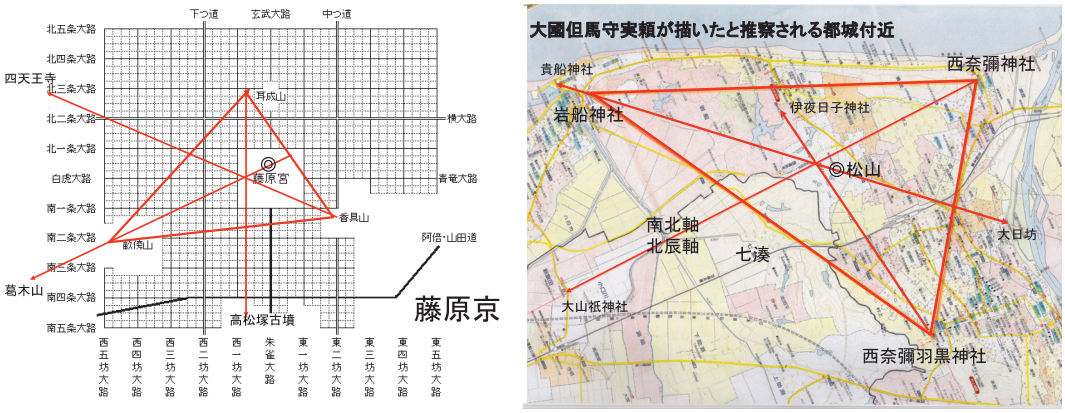

図 4　藤原京(左)と実頼が描いた村上の都城計画(右)

4.3　景家の大志とその終焉

Z 字形と三角図形が描かれた時期は景家が活躍していた戦国時代の 16 世紀後半であった。景家の大志とは、信濃川の治水事業を行って豊かな穀倉地帯とし、戦争や洪水、豪雪に苦しむ農民の生活を護ることではあった。大河津分水を造り日本海に分流する計画は、江戸時代中頃から始まったが難工事で 1922(大正 11)年になって漸く完成した。米山講が結成され米山塔が建てられ出したのは開削計画が出された頃からである。そして、大河津分水の完成によって恩恵を受ける地域に益々広がり、明治から大正期に最大に達した。

謙信は、景家が長岡平野の開発を夢見て色々と動き回っているのに気付き、それを南朝方と結んで謀反を企てる不穏な動きと察し、断腸の思いで柿崎家断絶を決断した。猿毛城の戦いで、景家は柿崎から長岡の深澤村に落ち延び、栃尾の田ノ口から西中野俣へと移り、深澤与吉と名を変えて引き籠った。その後、謙信が急死し、その跡目相続争いとして、景

勝方と景虎方とが越後を二分して戦われた御館乱が 1578(天正 6)年に始まった。負けた景虎方についた栃尾城は焼き払われ、景勝軍はその残党狩りを行った。その際与吉は、椿の茂みに身を隠して助かったので、屋号を椿とした。直江兼続は、弟大國実頼のために 16 年をかけて直江川(現在の中之口川)を開削しているが、栃尾の西中野俣でひっそりと暮らし始めた与吉はこれと言った動きも出来ずにいたと推察される。その後、景勝は越後から会津に国替えさせられ、兼続も米沢に移ってしまい、与吉もひっそりと息を引き取った。そして、長岡には牧野氏が入り、歴史から与吉も消えてしまった。

5.　まとめ

以上を箇条書にしてまとめると以下の如くとなる。

① 景家は 1513(永正 10)生まれで最初弥三郎と命名されたが後に弥二郎と呼ばれた。従って、弥三郎と弥二郎とは同一人物である。

② 景家は 1574(天正 2)年、1577(天正 5)年、1578(天正 6)年没などの説があるが定かではない。深澤与吉が景家であったとすると 1614(慶長 19)年没で 101 歳まで生きていた。

③ 景家は 12 歳から何回も米山に登り、八石山と黒姫山、弥彦山と守門山を眺めて育ち、刈羽、頸城、越後の平野などの地理や災害、居住の様子を良く知っていた。

④ 景家は謙信の家臣として「越後の二天」「上杉四天王」なる異名を持つ立派な武将で、その奉行を務めるなど外交・内政両面においても上杉家を支えた人物であった。

⑤ 景家は、謙信が上洛して帰った折に褒美として貰った郷義弘の刀を家宝としていた。

⑥ 景家は謙信に信長に通じたとの嫌疑が掛けられ、猿毛山の戦いで景家を筆頭とするその謀反分子は皆殺しにされたとされているが、実際は逃がされ、生き延びた。

⑦ 謙信の本当の嫌疑は、南朝方の勢力が強かった長岡方面の親交を図り、信濃川の治水を図ろうとしたことが謀反の企てと映ったものと推察される。

⑧ 景家は、Z 字形の鬼門除け図形を造って地震と洪水と大雪を払うことを念じ、その一つの拠点であった長岡の深澤村に先ず逃れ、姓名と家紋を変えて匿って貰った。

⑨ 景家の信濃川の治水事業で肥沃な土地とする夢は、追われる身となり、叶わなかった。

⑩ 大國実頼は、謙信の思いを受け、村上に宮都を創ろうとしたが叶わなかった。この宮都創りにも景家(与吉)は、かつての嫌疑の件を払拭し、相談に乗ったのかも知れない。

⑪ 江戸中期に大河津分水の開削計画が立てられたが、予算不足と難工事が続き、大正になって漸く開通した。この悲願の中で米山講が広まり、米山塔が建立された。

6.　おわりに

景家の死亡した時期については色々な説があるが、今となっては本当のことは分からない。与吉から数えて 13 代目の深澤龍七郎は、金内安左エ門と二人で明治 7 年に中野俣小学校の世話掛かり[9]となった。当時龍七郎は伊勢の札配りなどもしており、河原に毛氈を敷き茶を立てて持て成すようなことも行っていた。そして深澤家には自然石の古い米山塔と

八海山塔を立て、修験者のようなこともしていた。また、郷義弘(富山県魚津出身の日本三大刀鍛冶。現存するものは福岡博物館にある黒田武士の一本槍として有名な国宝の日本号と加賀の利家が持っていた短刀がある。長刀は利家が信長に献上し、それで本能寺の変で自害したので消失した。)の刀が戦前まであった。これは謙信が上洛し天皇に拝謁し、越後に帰った1559(永禄2)年に、太刀を献じて祝賀[10]しているが、その際に景家46歳が献じ、家宝として持っていた。尚、丸に違い鷹の羽の家紋は、綾子舞を伝承している柏崎市女谷の布施家のものと同じである。これについても不明であるが、長男晴家が綾子舞の舞子と結婚して女児を設け、その子が三代目となり、深澤家が続いたものと推察される。

深澤与吉と景家の接点は不明な点が多いが、当論文で明らかにした内容は、後世の作り話とばかりは思えない。与吉は柿崎和泉守景家その人であったとすると、Z 字形や長岡平野に描かれた大きな三角形の都城構想、郷義弘の刀の話などについて合点が行く。今後も更に解明していく必要があるが、これで景家の大志の全体像が整理できたものと思う。

謝辞

柿崎和泉守景家の系図などについては、花ケ前盛明先生から資料[2] [3] [10]を送って戴いた。大野源先生からは地元出版社から出された景家についての文献を戴いた。島田進さんからは栃尾楡原の磐座のある神社に案内して貰った。そして、その磐座と見附市内町の城山とが結ばれていることを知った。平成元年に亡くなった父高吉の直礼の席で「初代の与吉が弥三郎か弥二郎で柿崎和泉守景家という立派な武将であった。椿の家には、戦前三条の刀研ぎ師が研いだ郷義弘の刀があったが、戦後、その刀があったら研がせて欲しいと葉書が届いた時には無くなっており、今は無い。・・・」などと教えてくれた深澤吉雄叔父と金内松吾氏のご冥福を祈りつつ感謝の意を表しておわりとしたい。

文献

[1]室岡　博：柿崎和泉守景家と上杉謙信　関係史跡・城館跡；米峯出版, pp. 1-204, 1990.
[2]花ケ前盛明：柿崎和泉守景家関係資料；柿崎高校社会科クラブ歴史班, pp. 1-34, 1970.
[3]花ケ前盛明：柿崎和泉守景家関係年譜；柿崎高校, pp. 3-13, 1972.
[4]室岡　博：柿崎和泉守景家　米山薬師信仰；柿崎町教育委員会内柿崎和泉守景家顕彰会, pp. 1-106, 1992.
[5]新潟県の地名：日本歴史地名体系 15；平凡社, pp. 1-1463, 1990.
[6]真宗大谷派　八重森山浄覚寺：大安慰－浄覚寺本堂再建落慶法要照徳院釋涌泉三回忌法要記念－；八重森山浄覚寺, pp. 1-24, 2001.
[7]岸　俊男：都城の生態, 日本の古代　9, 中央公論社, pp. 1-458, 1987.
[8]深澤大輔：村上三大祭りの行われる三つの神社の描く二等辺三角形による都城計画に関する研究―上杉謙信と大國但馬守実頼による都城の構想―；新潟工科大学研究紀要, 第 14 号, 新潟工科大学, pp. 41-54, 2009.
[9]金内正平(桜州)：私本栃尾市中野俣起因, 金内道雄(刀匠五代目), pp. 1-130, 1997.
[10]花ケ前盛明：上杉謙信；新人物往来社, pp. 1-416, 1990.